

日本初記録のヒゲナガカワトビケラ属の1種 (*Stenopsyche pallens* Nozaki et al.)

野崎 隆夫・村松 詮士

Takao NOZAKI and Norihito MURAMATSU: A new record of
Stenopsyche pallens Nozaki et al. from Hokkaido, Japan

はじめに

ヒゲナガカワトビケラ属は、東洋区と旧北区東部に分布が限られ、種数も比較的少ないグループであるが、大型で幼虫がしばしば高密度に生息することなどから、日本の河川でもっとも目立つ水生昆虫のグループの一つである。本属の日本産種としては、実体が未詳のシナノヒゲナガカワトビケラを除けば、ヒゲナガカワトビケラ（以下「ヒゲナガ」という）、チャバネヒゲナガカワトビケラ、オキナワヒゲナガカワトビケラの3種が一般に認められ、北海道からは大陸、サハリン、千島列島をはじめ日本各地に広く分布するヒゲナガ1種のみが知られる（谷田，2005）。

最近、Nozaki et al. (2008)はサハリンにはヒゲナガのほかにも別の1種が生息することを発見し、新種として *Stenopsyche pallens* を記載した。しかし、その時点で検討した北海道各地の標本はすべてヒゲナガであった。一方、本報告の著者の一人村松は、長年網走支庁管内のトビケラ相を調査し、その中でヒゲナガも多くの地点で記録してきたが（伊藤・村松，1995；伊藤・村松，1998；村松，2008）、今回のサハリンでの新種発見を機会に所蔵標本を再精査した。その結果、本種に該当する雌雄各1個体の標本を発見し、野崎が確認した。

ここでは、網走支庁管内のヒゲナガカワトビケラ属の標本の再検討の結果について述べるとともに、近似種ヒゲナガとの区別点について紹介する。なお、標本の採集者は村松で、保管場所についても記述のないものはすべて村松である。

網走支庁管内の分布

1. *Stenopsyche pallens* Nozaki et al. シロアシヒゲナガカワトビケラ（新称）

北見市留辺藪町武華岳登山口（標高900m）：1♂，11.VI.1998（野崎保管）。北見市美里ルクシ峠（標高350m）：1♀，31.V.1991（野崎保管）。

2. *Stenopsyche marmorata* Navás ヒゲナガカワトビケラ

北見市留辺藪町武華岳登山口：2♀，14.VII.1997（1♀：野崎保管）；1♀，10.IX.1998。北見市留辺藪町大和：1♀，19.VI.2008。北見市美里ルクシ峠：1♀，27.VI.1991；1♂1♀，29.VII.1992；1♀，24.VIII.1991。北見市富里仁頃山駐車場：1♂1♀，22.VII.2007；1♂，23.IX.2007。北見市常呂町東亜林道：1♀，18.VI.1998。置戸町鹿の子沢ダム：1♂，6.VII.1990；1♂1♀，27.VI.1992。置戸町鹿の子沢：1♀，19.VIII.1997；1♀，7.VII.1998；1♂，30.VII.1998（野崎保管）。置戸町常元上ホロカト

コロナイ川河川敷: 1♀, 22.VI.1998. 津別町最上チミケツブ湖畔: 1♀, 13.VIII.2007. 斜里町知床峠: 1♀, 20.VII.1998; 1♀, 8.VIII.1999.

北海道産のヒゲナガカワトビケラ属はいままで1種と考えられてきたこと、大型のためたくさん採集すると標本の処理に困ることなどから、灯火採集などで多数飛来しても十分な個体数を採集しておらず、分布に関して十分な議論ができるほどの材料はない。しかし、今回確認されたシロアシヒゲナガカワトビケラ（以下「シロアシ」という）2個体の採集地はいずれも山地溪流の上流部であった。一方、ヒゲナガは湖畔や山間の谷川とともに、シロアシ採集地点でも採集された。過去の北海道各地の調査でもヒゲナガは河川の上流から下流まで広く記録されているにもかかわらず、シロアシが発見されていないことは、ヒゲナガに比べ山地溪流の源流部などに分布が限られている可能性がある。

ヒゲナガカワトビケラ属2種の区別点

1. サイズと翅の斑紋 (Fig.1a, b; 2a, b)

シロアシはヒゲナガより平均的に小さく、前翅長はシロアシが14-19mm、ヒゲナガが17-27mmである。翅の斑紋は互いによく似ているが、シロアシの前翅に茶褐色の地色部分が多く、ヒゲナガのほうがより細かい点紋になる。ただし、翅の斑紋の変異については、今後より多くの標本を検討する必要があると思われる。

2. 肢の斑紋 (Fig. 1c, 2c)

ヒゲナガが、前肢と中肢の脛節および中肢の第1・第2ふ節に明瞭な黒褐色の斑紋を持つのに対し、シロアシは同じ位置に薄い褐色の斑紋を持つ。サハリンのシロアシの標本も、ほとんど斑紋のみられない個体や今回と同じ程度の個体が多かったが、褐色斑が比較的濃い個体も含まれていたため、北海道にも斑紋の色が濃い個体がいる可能性があり注意が必要である。

3. 雄交尾器 (Fig. 1d, e; 2d, e)

シロアシの10節は短く、背面の両側縁は平行であるのに対し、ヒゲナガのそれはやや長く、両側縁は基部に向かって広がる。また、シロアシの下部付属器 (inferior appendage) の先端が丸みを帯びるのに対し、ヒゲナガでは先端の内側が伸び鋭角となる。

4. 雌交尾器 (Fig. 1f, 2f)

非常によく似ているが、ヒゲナガの陰門鱗 (vulval scale) の先端のふくらみがシロアシのそれより突出することで区別できる。

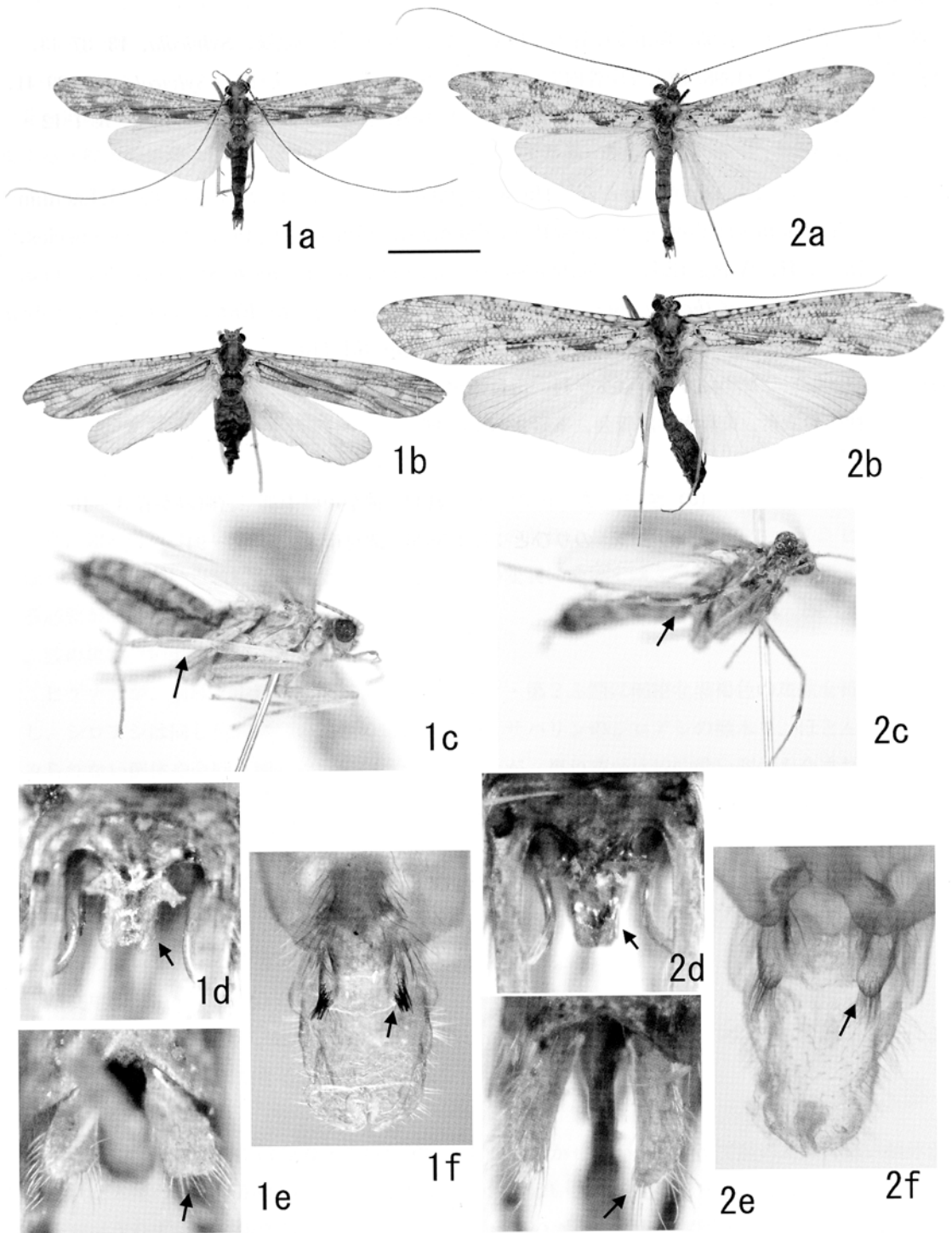
結論として、種の確認には今のところ交尾器の精査が欠かせないが、小型で肢の斑紋の薄い個体が見つかれば本種の可能性が高い。なお、シロアシの幼虫はいまだ未発見であり、分布域ではヒゲナガ幼虫と混同されている可能性があるため、本種の生息域の調査や幼虫の解明など今後の研究が必要である。

引用文献

- 伊藤政和・村松詮士 (1995) 網走支庁管内で採集されたトビケラ目の記録. *Sylvicola*, 13: 37-43.
- 伊藤政和・村松詮士 (1998) 網走支庁管内で採集されたトビケラ目の記録 (II). *Sylvicola*, 16: 39-41.
- 村松詮士 (2008) 網走支庁管内で採集されたトビケラ目の採集記録. オホーツクの昆虫, 5: 1-12 + 表1-4.
- Nozaki, T., T. I. Arefina and Y. Hayashi (2008) The genus *Stenopsyche* McLachlan (Trichoptera: Stenopsychidae) in Sakhalin, with description of a new species. In X. H. Wang (Ed.) *Contemporary Aquatic Entomological Study in East Asia - Proceedings of the 3rd International Symposium on Aquatic Entomology in East Asia (AESEA)*, Nankai Univ. Press. Tianjin, pp.101-110.
- 谷田一三 (2008) ヒゲナガカワトビケラ科. 川合禎次・谷田一三 (編). 日本産水生昆虫 科・属・種への検索, 東海大学出版会, 秦野, pp.64-66.

(のぎき たかお:259-0132 神奈川県中郡二宮町緑が丘3-16-15)

(むらまつ のりひと:090-0826 北見市末広町366-94)



Figs. 1-2. 1 : シロアシヒゲナガカワトビケラ *S. pallens*, 2 : ヒゲナガカワトビケラ *S. marmorata*.
 a: 雄背面 (male, dorsal), b: 雌背面 (female, dorsal), c: 雄側面 (male, lateral),
 d: 雄腹部末端背面 (male genitalia, dorsal), e: 雄腹部末端腹面 (male genitalia, ventral),
 f: 雌腹部末端腹面 (female genitalia, ventral). スケールは1cm (a及びb用).